

「工藤篤子メールマガジン」第1号 2001.11.29

事務局より

主にある支援者の皆様へ、

いつも「工藤篤子音楽ミニストリーズ」のためにお祈りいただき感謝申し上げます。

このたび初めての試みとして、工藤女史から直接ニュースをメールマガジンという形で配信することになりました。これは工藤女史と支援者をつなぐものであり、工藤女史からの最新ニュース、祈りの課題などをお伝えし、支援者との交流を目的とするものです。工藤女史から原稿は以前にいただいていたのですが、準備などにより少し遅れてこのたび皆様にお届けすることになりました。これからだんだんと良い内容にしていこうと願っておりますので、ご意見、ご希望などがありましたら事務局までお知らせください。



主にある支援者の皆様へ、

工藤篤子

ハンブルグは朝起きると迎えの家の屋根にときどき雪が積もっている今日この頃です。

皆様いかがお過ごしでしょうか。

皆様に私の近況をより早く知っていただくために、メールマガジンをお送りいたします。

出来れば2週間に一度ぐらゐの割合で、また緊急ニュースや祈禱課題がある場合には、随時お届けしたいと思っています。

写真：ハンブルク、プランテン・ウン・ブローメンの日本庭園



近況報告

1. 聖地旅行

11月20～28日、ハーベストタイムの聖地旅行に、賛美奉仕者として同行いたしました。

旅は無事守られ、帰独しました。皆様のお祈りを感謝いたします。



(聖地旅行に寄せて～昨年の思い出)

私は昨年10月、黒田禎一郎牧師のグループと初めてイスラエルに行きました。

その旅行が、私にとっていかに大きな霊的転機になったかを、少し説明させていただきたいと思います。

私は、昨年6月ハンブルグ教会の伝道師を辞任して、賛美伝道活動を始めようと決心しました。2年間祈り求めてきたことでした。日本に戻っていろいろな先生に相談いたしました。まず日本の教会事情に精通した大先生が、日本社会の事情を細かく説明してくださり、私のミニストリーズ設立書を「自分のことと考えると」丹念に校正してくださいました。その先生は、まずどこかの教会が支えてくださるとよいのですが、とおっしゃいました。けれども、何も起こらないような日々が過ぎてゆきました。果たして主は本当にそのように導いてくださるのか分からなくなってゆきました。また、13年間宣教師と共に開拓してきたドイツの教会への拭いきれない思いが、またよみがえってきました。

そのうちドイツの母教会から、もう一度考え直してほしいという打診がありました。これは、私の決心を大きく揺さぶりました。けれども時間はたっぷりありましたので、とにかくみことばと共に祈りました。時とともに、再び主から確信が与えられました。9月、カウンセリングの最後のセミナー受講も兼ねて、ドイツに帰りました。牧師と話しをし、私の決心に揺るぎはないことを伝え、そして10日後、再び日本に戻りました。

そのような時が、「ミッション・宣教の声」が窓口になってくださることを進言してくださり、「イスラエル旅行を、その活動を始めるにあたっての霊的な門出にしましょう」とおっしゃってくださいました。そしてそのイスラエル旅行は、確かにミニストリーズ設立にあたっての、素晴らしい霊的門出になりました。特にエルサレムでは、歴史を支配する創造主の偉大さに圧倒されました。その時この全能の神は、私のちっぽけな奉仕ぐらい導いてくださらないはずはない、と確信しました。すると、私の心には恐れや不安は全くなくなっていました。



聖地旅行から帰って、11月、黒田先生を世話人代表とし、ミニストリーズが設立されました。そしてこの旅行に同行していた中川庸子姉妹が世話人になってくださいました。彼女もまたこの奉仕に対して不安があったのですが、この時期に確信が与えられたようでした。

その一年後、関西地区で8人の世話人が与えられ、聖地旅行で一緒した、近藤宏子姉妹、土田典子伝道師がそこに加わってくださいました。このように、昨年の聖地旅行を通し、神様は実に大きな祝福をもたらしてくださいました。今回の聖地旅行も、また新たな祝福を与えてくださると信じています。

写真：2000年聖地旅行、後ろ左から黒田牧師夫人、中川姉、土田典子先生、前列左が近藤宏子姉、中央が黒田牧師

2. FEGC 新会堂記念礼拝

FGEC（自由福音クリスチャン・チャーチ）ーハンブルグの私の教会です。開拓14年目にして、初めて自分たちの家、つまり教会を借り入れました。9月から皆で改装作業をしてきましたが、やっと人様にお見せできる状態になりました。（私もペンキ塗りや、梁のやすりかけなどを手伝いました。日本の皆さんはペン

キ塗りなどしたことありますか?)明日18日が新会堂記念礼拝です。この一週間、近所を一軒一軒回って、招待状を配りました。どうか地域の人たちに開かれた教会になりますようお祈り下さい。

3. L氏のこと

L氏は私のピアニスト(日本人)のご主人で62歳のユダヤ人です。会うたびに信仰論争になります。最後にはキリスト教をさんざんけなすのがおちなので、私の方からは極力話題を避けるようにしています。彼はなんだかんだと言っても、神の存在が気になるらしく、いろいろ質問をふっかけてきます。けれども、9月11日のテロ事件の日、急に Atsuko の顔が浮かんだから、と言って、奥さんと近くの福音教会に入り祈ったというのです。彼が福音教会に入るなど、画期的なことです。そして先日、「日本での活動のために祈っているよ」とまじめにいわれました。どうぞこのご夫妻の救いのためにお祈りください。

寒さがます今日この頃、ドイツはカゼがはやっています。

みなさまの健康が守られますようお祈りしています。

シャローム 工藤篤子

祈禱課題

- 1) 12月1日の来日とコンサートのために(12月に10回)。
- 2) 新しいCDの編集がうまくいき、伝道に用いられますように。
- 3) FGECの新会堂が豊かに用いられますように。
- 4) L氏(工藤女史の日本人ピアニストのご主人で、62歳のユダヤ人)のご夫妻の救いのために。